Quarterly Journal of Seismology

Vol. 49

験震時報

第 49 巻

昭和60年 7 月

気　　象　　庁

Published by the Japan Meteorological Agency
Tokyo

July 1985

第 49 巻　総　目　次

気象庁地震火山部・三宅島測候所・気象研究所
：昭和58年(1983年)三宅島噴火調査報告…… 1
大地　洸・徳本哲男・中川　一郎・笹井　洋一・歌田　久司・石川　良宣・
小山　茂：三宅島噴火に伴う地磁気全磁力変化…… 49
横山　博文：最近の気象庁地震観測網の震源決定能力
－1979～1983－ …… 53
高橋　道夫・吉田　弘・加藤　茂・浅田　昭・春日　茂
：伊豆半島東方沖の群発地震活動(1984年８月30日～)の水中音響観測…… 67
塚越　利光・望月　英志・平井　俊一・吉川　一光
：ＡＲモデルによる地震波形処理…… 73
山本　雅博・後藤　主夫，豊田　正昭，永岡　修：福岡管区気象台地震波形
テレメーターシステム整備とそれに伴う地震検知能力の改善について…… 93
大阪管区気象台：昭和59年(1984年)５月30日兵庫県南西部の地震調査報告……105
市川政治：地震のメカニズム解の信頼度表示について……117

Quarterly Journal of Seismology

Vol. 49

Contents

Seismological and volcanological Department, J.M.A., Miyakejima Weather Station and Meteorogical Research Institute: Report on the Eruption of Miyakejima, 1983 …… 1
K. Ohchi, T. Tokumoto, I, Nakagawa, Y. Sasai, H. Utada, Y. Ishikawa and S. Koyama:Variation of Geomagnetic Total Force with the Eruption of MiyakeJima (1983) ……49
H. Yokoyama:Epicenter Determination Ability of the Recent JMA Network －1979～1983－ …… 53
M.Takahashi, H.Yoshida, S.Kato, A.Asada and S.Kasuga Hydrophone Observation of the Earthquake Swarm(August 30th, 1984－) off the East Coast of the Izu Peninsula …… 67
T.Tukakoshi, E. Mochizuki, T.Hirai and K.Yoshikawa : The Processing of Digital Seismograms using the Auto Regressive Model …… 73
M.Yamamoto, K.Goto, M.Toyoda and O.Nagaoka On the enhancenment of the Seismic detection capability by the newly installed Kyushu Seismic Telemetering System …… 93
Osaka District Meteorogical Observatory Report on the Earthquake of SW Hyogo Prefecture, 30 May 1984 ……105
M. Ichikawa Reliability of Focal Mechahism Solutions ……117

験震時報投稿規定および投稿の手引き

験震時報は全国気象官署の職員が行った気象庁の地象業務に関連する分野の研究・調査を掲載し，原則として年4回刊行する．内容は論文・報文および雑報である．論文は新しい知見を含むもの．報文は論文と比較して調査・資料的傾向のあるもの．雑報には寄書・短報・速報・討論・著作目録・正誤表を含む．

原稿は投稿規定と投稿の手引きに従って作成する．不備な原稿，次の**投稿規定**に沿わぬ原稿は返却することがある．

1. 他誌に掲載したものをそのまま再投稿してはいけない．また，他誌に掲載したものの続編形式にはしない．
2. 原稿の本文は和文とする．和文は原稿用紙に読みやすく書く．アブストラクト等の英文はなるべくタイプライターを使う．
3. 表題は和文と英文で書く．
4. 著者名は漢字とローマ字で略さずに書く、所属官署名は和文で書く．
5. 論文には英文アブストラクトを付ける．英文アブストラクトは別紙に書く．
6. 図はトレーシングペーパーに墨や製図用インクではっきりと描く．また，赤・黄等の紙や方眼紙，リコピーの用紙およびボールペン・サインペン等を使わない．
7. 図表の表題・説明は論文の場合原則として英文で，その他の場合和文で書く．図の表題・説明は別紙にまとめて書く．
8. 本文の末尾における参考文献は，原則として次の形式に従って列記する．

雑誌――著者名（年）：表題，雑誌名，巻数，号数(省略してもよい)，ページ～ページ．

単行本――著者名（年）：書名，第何版，発行所，総ページ pp. 数．または引用ページ．

（例）

久野　久（1958）：大島火山の地質と岩石，火山，第2集，3，大島特別号，1～16.

Gutenberg, B. and C. F. Richter (1942) : Earthquake Magnitude, Intensity, Energy and Acceleration, Bull. Seism. Soc. Amer., 32, 163～191.

竹内　均（1966）：地球物理学（坪井忠二編），第1報，岩波書店，67～71.

Jeffreys, H. (1959) : The Earth, 4th ed., Cambridge Univ. Press, 108～113.

9. 著者には別刷50部を無料で送付する．
10. 原稿送付先は気象庁地震予知情報課

原稿を作成するときは，次の**投稿の手引き**の各項の趣旨に沿うこと．また，原稿提出前には以下の各項に沿って必ず原稿を点検する．

1. 本　文

1.1　編集・印刷の便宜上400字詰の原稿用紙を使う．

1.2　図表用のスペースを本文にあけておかない．

1.3　数式は2行取りに書き，数式の文書・記号をはっきりと説明する．

1.4　誤まりやすい英字・ギリシヤ文字・ベクトル記号にはフリガナを付け，大文字・小文字の別を示す．添え字は判別出来るようはっきり書く．

1.5　暦年には原則として西暦を用いる．

1.6　人名の敬称は原則として省略する．

2. 表題・アブストラクト・はしがき

2.1　表題は具体的に内容をよく伝えるものであること．

2.2　英文の目的・仮定・方法・結論等を明確に書き，次の諸点を留意する．㋑表題をそのまま使って第1行を書き始めない．㋺図・表・式・文献の番号を引用しない．㋩第三者の立場で書き，I や We を用いない．

2.3　はしがきには，本文の目的・方法・意義・他の研究との関連等を書く．

3. 図　表

3.1　図表の数は最小限にとどめる．

3.2　図表のそう入箇所を本文の欄外に記入する．

3.3　図表中の文字・記号等をもれなく説明する．また，必要な単位は必ず付ける．

3.4　製版後．図の修正は不可能だから注意する．

3.5　原図の大きさは印刷時の2～3倍（線拡大率）くらいがよい．図に記入される英字・数字は印刷時の大きさが1mm，漢字の場合は1.5mm以下にならぬようにする．

昭和60年11月5日発行

編集兼発行人　気　象　庁
東京都千代田区大手町1ノ3－4

印　刷　所　株式会社　双　文　社
東京都文京区本郷1－14－8